

## 第7分科会 読書指導のあり方（学習センターとしてのあり方）

助言者 依田 学（長野県総合教育センター教職教育部 専門主事）  
司会者 西村 敦子（箕輪町立箕輪北小学校）  
発表者 大塩 貴子（塩尻市立桔梗小学校）  
諸角 昌志（小谷村立小谷中学校）

### 1 発表の概要

＜桔梗小学校 研究テーマ「読書指導のあり方」＞

- (1) 図書館の配置の工夫。書棚に番号をつけて日本十進法に沿ってレイアウト。興味がある本や新刊本を取り出して、机上やカウンター、図書館入口に配置。
- (2) 3学年「本を使って調べよう」①図書館で本探しをして、ラベルの便利さに気づいた子ども達に十進分類法、配架の仕方、司書の先生の仕事を教えた。②ポプラディアの使い方を教え実際に語句を利用させた。③塩尻市立図書館「えんぱーく」へ行って、子ども達が本探しをした。
- (3) 子ども達が自分で学習を進めていく上で、図書館の知識を教えておいたり、使いやすい環境作りしたりすることが大切。

＜小谷中学校 研究テーマ『学習センター』としての図書館利用の現状と課題』＞

- (1) 生徒の主体的で意欲的な学びを引き出す授業作り。学び方を学ぶことへ意識。
- (2) 情報教育と図書館教育の情報活用能力を育成する面での一元化をはかるための校内体制の見直し。
- (3) 図書館と授業の連携を深め、年間計画づくり。時期に合わせて資料を用意したり特別コーナーを設置したりして、授業や生徒の自主的な学びを支援。

### 2 討議の概要（A～Fグループに分かれて討議）

- A パソコンと図書館のそれぞれの良さを子ども達にアピールして、利用させたい。
- B 司書のオリエンテーションより、先生の話の方が子どもはよく聞いている。年間計画を作って、司書が授業に関わる資料や図書を準備していけるよう連携していきたい。
- C 図書館の位置、司書の常勤は重要である。インターネットの資料探しが多くなっている。図書館で調べ学習ができるよう、司書と学校の連携が必要。
- D 学習センターとしての機能と子どもたちの心の居場所としての図書館を両立できることが理想である。
- E 先生によって、図書館の利用の仕方が違う。図書館での調べ学習は難しいが、小学校から調べる方法を教え、積み重ねていくことで、中学校で活かせる。
- F 地域によって、移動図書などもあり図書が充実。調べ学習では、ネット資料と図書資料の共存が課題。教員と学校司書の時間的接触が少ないため、情報交換の場がほしい。

### 3 まとめ（助言者の指導を含む）

- ・新学習指導要領では、「どのように学ぶか」（アクティブラーニング）が導入。アウトプットすることで、個々の知識が結びつきネットワーク化され、長期記憶として残る。
- ・桔梗小学校では、図書館内の配置作りの工夫があった。人々を結びつける人的環境を整えていた。
- ・小谷中学校では、課題に向かって解決していく工夫があった。明らかになった課題への提案に向かって、連携し合って解決に向かっていった。
- ・調べ学習では、学び方を学ぶ学習として一連の流れを設定していく。自ら課題を設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現という流れを計画・実行。
- ・学習センターとして図書館に求められる機能は、校長がリーダーシップをとり、司書教諭、学校司書、ボランティア、担任がチームを組み、連携・協力して進めていくことが重要。